



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N°86 septembre 2009 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

新会長に内田淳正氏(三重大学長)を選出

三重日仏協会2009年度総会

今年度総会は7月12日津市の津都ホテルで開催、理事会提出の各議案を原案通り議決しました。今回は役員改選期にあたり下記の役員を選出しました。(敬称略)

会 長	内田 淳正(新)			
副 会 長	井土 真杉			
専務理事	豊田 元子(新)			
常務理事	ティエリー・グットマン(新)			
理 事	J・F・ダムム	伊藤 達雄	疋田 敬志	武田 治美
	橋本 信賢	岡田 明子(新)	矢野 隆嗣(新)	
幹 事	山中 利之			
事務局長	滝澤 秀行			

退任された豊田長康会長(2期)、藤田謹司専務理事(10期)、長らくご尽力ありがとうございました。

〈サルコジ派、反サルコジ派が鋭く対立〉 記念講演

総会に続き、この3月1年間のフランス滞在から帰られたT. グットマン氏(三重大学人文学部准教授)が「サルコジとフランス社会」と題して記念講演されました。氏はこのなかで、サルコジ大統領の人物像、選挙勝利の要因、政治手法について、フランスのTVの画像なども交えながらわかりやすく話され、彼の政策が新自由主義的で富裕層に有利なものであるのに、そのポピュリズムによって世論の約半分を味方につけており、いまフランス社会はサルコジへの支持をめぐって鋭く対立していると結ばれました。またそれに比して日本では、あまりにも対立がない状況ではないかと指摘されました。



Alexandre-Gabriel Decamps
1803-1860

光を当てたい

19世紀フランスの画家・ドゥカン

ルーヴル美術館の
「キャラバン」をめぐる

亀井カノン

みなさんは、19世紀フランスの画家 ドゥカン Alexandre-Gabriel Decamps (1803-1860) をご存知ですか。フランスでは今でもかなり有名で、ロマン主義の絵画を語るには、忘れてならない巨匠の一人とされています。ところが不思議なことに、日本には殆ど紹介されないまま今日に至っています。どうやら同時代では ドラクローアとミレー の存在が余りにも大きく、その陰にあって、遠い日本まで届かなかったのでしょうか。

ぼくは1997年に高校教員を退職して渡仏、4年間パリに滞在して改めて美術を学びました。モンパルナスの屋根裏部屋に住み、毎日のようにルーヴル美術館へ通って、名作に触れ、模写し、同好の士と交わりました。お陰さまでたくさんの絵画や彫刻、工芸品の名作名品に接し、友人たちにも鍛えられました。その中で、今でも生き生きと鮮やかに脳裏に蘇る画家とその作品があります。その第一が画家ドゥカン です。いつからか、みなさんにこの画家のことを伝えたいと思うようになりました。

画家ドゥカンは、1803年3月3日パリの裕福な宝石・両替商の家に生まれました。頑固で気難しい性格は父親譲り、繊細な芸術の才能は母親譲りと言われています。

ルーヴル美術館を訪ねてみましょう。シュリー翼のエレベーターで3階に上って迷わず右手へ。そこは19世紀フランス絵画のオンパレード。コロー、ドゥカン、バルビゾン派。そしてシャセリオ、ドラクロア、ジェリコー、アングル・・・と続きます。シャセリオの部屋に入ると、まずドゥカンの作品「キャラバン」1854年 油彩 0.60×1.00 m (右頁図) が迎えてくれます。そこから始まるオリエンタリズム (東方趣味) はロマン主義の中でも精彩を放っています。1828年から1829年にかけて、先駆けとして現地東方に旅した画家ドゥカンが、その流れの巻頭を飾っているのです。

作品「キャラバン」はルーヴルの作品絵はがきの中でも、売り上げ上位の人気作品だそうです。この作品の前に立つと、いかにも遠く旅し、東方 (トルコ) に長く滞在して、現地に馴染んだ画家ならではの、精緻な地誌と空気が伝わってきます。砂漠の夜明け、全天すでに黄金色に染まり、大地に浮かぶ駱駝の人影は、折からの曙光に射抜かれているようです。暗く寒い夜を耐えた者に訪れる、来迎の感動と感謝の念が伝わってきます。遥か地平の彼方から聴こえてくるのは、民族と宗教を超えた平和の祈りか、これぞ永遠のイスラム風景です。

オリエンタリズムの画家の多くは、その時代の要請か、好奇と挑戦と支配の目をもって描いています。しかしドゥカンが異国を見る目は、どこまでも優しく平等で謙虚です。その土地と人々に慈しみに溢れた目でしっかりと向き合っています。先頃宇宙から「地球に国境線は見えません」と叫んだ飛行士の言葉を思い出します。この画家に光を当てたいと願う所以です。



Alexandre-Gabriel Decamps

1803 - 1860

La caravane

Huile sur toile

0,60 x 1,00 m

この作品「キャラバン」は画家の遺作とも言われています。1855年に開かれた第1回パリ万国博覧会に政府の招聘により4人の画家が選ばれ、大規模な回顧展が開かれました。アングル、ドラクロア、ドゥカンそしてヴェルネでした。選に漏れたクールベが門前で個展を開いたのはこの時です。ドゥカンは体力の衰えを知り前年に筆を擱いていましたが、この招聘を喜び奮起して再び画布に向かい、この作品が生まれました。

画家ドゥカンの生涯を辿ると、その画業はいくつもの分野にわたり、常に先駆的であろうしてきました。その絶えざる進歩性は辛口評論のボードレールさえ讃えています。「急いで近づこう・・・というのもドゥカンの作は、見る前から好奇心に火をつけるのだから・・・いつだって驚かせてもらえると自分に約束できる・・・」(ボードレール批評I 阿部良雄・訳 p29)。偶然でしょうか。戦後日本の現代アートシーンをリードした、吉原治良と「具体美術協会」の皆さんが目指したものもまさにそれでした。

その画家ドゥカンが最後の1作に選んだのは東方の題材でした。生涯を回顧して、自らをオリエンタリズムの画家として、誇りと自信を示した墓碑とも言える作品です。日本人には、平山郁夫のシルクロード連作の作品を重ねて見るのも楽しいでしょう。

ドゥカンは画家として多才でした。政治諷刺画にも優れ、封建反動の中心シャルル10世を諷刺したカリカチュアで芸術家として認められ、若きドーミエを雇った編集長でもありました。

またコローと共に、早くからバルビゾン森に入って風景画を写生し、後のバルビゾン派形成への道を拓いています。まだ売れない貧窮のミレーを何度も訪れて、評価し、励まし、援助しています(A.サンズエ「ミレーの生涯」)。

画家は趣味の狩猟が高じて大の愛犬家で、犬たちの肖像をたくさん描き、猿も飼って可愛がり、猿の擬人画を連作して、人々を楽しませました。八王子市の村内美術館には、その1枚パステル画の「猿の理髪師」が常設展示されていて、その表情表現の巧みさと、猿への親密なまなざしに思わず頬が緩みます。動物画家、風俗画家としても超一流でした。市民に愛された画家でした。

そのドゥカンが、本当は若い日から歴史画家を夢見ていたこともよく知られています。ときの政府からの注文を受けて、公共の場所に置かれる歴史画の大作を制作することは、当時の画家にとっては最高の栄誉でした。しかし画家ドゥカンには生涯ついに1枚の発注もありませんでした。画家は1860年8月22日フォンテンプローで、大好きな狩猟中に落馬して急逝しました。享年57歳でした。

1870年普仏戦争が始まり、破竹の勢いでフランスに侵攻したプロイセン軍の攻撃によって、フォンテンプローの画家の家は焼失し、保管されていた多くの作品は失われてしまいました。

(三重日仏協会会員)

豪華図録<COLLECTION SEM>寄贈受ける

郡山サロン文化美術館より

このほど本会宛に写真のような豪華な図録「セム画集 COLLECTION SEM 彼の生きたフランス、時代と文化」が寄贈されました。贈り主は福島県郡山市にある郡山グランドホテル内のサロン文化美術館（代表・川島利夫氏）で、19世紀後半パリの社交界で活躍しながら、皮肉な目でフランスの風俗、社会を描いたセム（本名・ジョルジュ・グルサ）の作品が集大成されており、日仏語対訳による解説も彼が生きたフランス社会、文化の状況がよくわかって興味深いものです。セムの多くの作品を収蔵している同美術館では、このほどこの作品集を完成させたのを機会に、フランスの芸術文化を愛する人たちに楽しんでもらいたいとの意図で三重日仏協会にも寄贈くださいました。



ご覧になりたい方には貸し出しいたします。事務局で保管していますのでお申し出ください。ただし秩入り3巻の豪華仕様で、目方も9kg近くありますのでそのおつもりで。(059-226-2766 井土)

テレビでもPCでも見られるTV5MONDE

<TV5MONDE>からは毎月本会事務局に「お勧め番組表」が届いています。

それによると、各種、各水準のフランス語講座をはじめ、古今の映画や音楽、旅行、ドキュメンタリー番組などフランスやフランス語圏の放送がTVでもPCでも24時間見られます。月額980円と1,200円の二つのプランがあるそうです。詳細は www.tv5monde.com/japon まで。

会員音楽家の活動

♪大廣朋子さんのデュオコンサート♪

07年本会20周年記念コンサート「みえにちふつの音楽家たち」に出演した東京在住のピアニスト・大廣朋子さんが、10月2日(金)東京オペラシティー・リサイタルホールでの「ピアノデュオ・プリランテⅧ～宇宙へのメッセージ」に出演、西村晶子さんとのデュオで、ホルストの「惑星」から「天王星、海王星」、バーバーの「思い出」などを演奏します。

詳細は同コンサート事務局：03-5853-0789まで。

♪村林浩代さん——オペラのアリアなどを松阪のホテルで♪

同じく07年の記念コンサートに出演のソプラノ歌手・村林浩代さん（津市在住）が、やはり10月2日、松阪市中央町のフレックスホテルでの夕食会でオペラアリアやフランス歌曲などを披露します。

詳細は同ホテル：0598-52-0800まで。

今年のヌヴォー・パーティーは11月19日

ボジョレをはじめとする今年のフランス、イタリアの新酒解禁を祝ってにぎやかに賞味する恒例の行事、今年は解禁日にあたる11月の第3木曜日19日に開催されます。ワインショップ・ウチヤマ（長田康二代表）の主催、本会協賛。

会場は今回初めてレストラン「アンダルシア」（津市桜橋2、三重県教育文化会館1階）となりました。詳細は長田さん：059-226-3312まで。